

じめにさつ



皆さん こんにちはお元気でお過ごしの事とお察しいたします。大和新聞の準備号を発刊するにあたり一言御挨拶申し上げます。

さて早いもので今年ももう少しで終わるとしております。事務所を構えて丸4年、口演の先々でたくさんの方たちと出会い、友人になつた事をきっかけにこのデジタルな時代に超アナログな「大和だより」を作る事に致しました。(しかしさすがにパソコンは使っています)私も元気で毎日口演して回っています。今年も12月までで365回以上口演が出来そうです。これも皆さまの応援のおかげです。ただただ感謝です。私と友人になる方々もお陰

様で100名を超えるようになり、少しづつ増えていきます。その方々に大和文をより知つて頂く為の方法として新聞を発刊する事になりました。出来るだけ写真を多くして文字を少なくします。御笑読頂き御感想等お寄せ下さいませ。

さて御存じの通り、日本は大変な時代に入りました。戦後の復興後飽食時代が続いたために縄文時代から明治時代までの発展をひと世代でそれ以上ものにしてしまいました。このあまりにも加速度的な文明発展に我々の心が追いつかないことによつて、起きてはならない問題が様々な面で起つていて、と思います。そのことを解決するのは人間が太古から変わらないもの「お互い様の心」「親や子、国を思つ心」「そして神道の心」等が鍵を握つていると思うのです。そんな「心」の嘶を「笑い嘶」にして、もつともつと全国で話したいと思っています。皆さまの周りで面白い話、また感想等でも結構ですので送つて頂けたら有り難いです。どうか皆様今後とも応援をして頂き、私の口演活動の御支援をしてくださいませ。皆様の御期待に添えますようスタッフ一同頑張りますので、宜しくお願い致します。

大和霞が関で口演



友人の会3300人の会
現在100名突破



創刊準備号
平成23年11月1日
発行:矢野大和事務所
発行責任者:矢野大和

ボス」を一番前に座つてゐる人に差し上げるといきなり驚いた。観光庁の職員の方。もらつたのが「嬉しそうでよかつた」と思つた矢先にこの人が慌てて力ボスを落としころがした。これがバ力受け。すっかり雰囲気が和んでしまつた。何よりこの方のお陰で「つかみ」はOK。後は普段通りしゃべつて終わつた。良く笑つてくれたが二度とお呼びは来ないだろうと思うが、しがしそれは相手が決める事。楽しみに待つことにしよう。しかしあ、私のような者に声が掛かつたものだ。観光庁長官の溝畠氏より直接私の携帯電話に掛かつてきたことが生涯の驚きの一つだ。観光庁総務課調整室の広瀬さん本当に世話になりました。沖縄出身の新垣さん、3300人の仲間に入つて頂いてありがとうございました。来年CDを出して頂けるビデオミュージックの前田さん、NHK文化センターの福邊さんも聴講して頂いた。いつか感想をお聞きしたいものだ。とにかく再チャレンジしたい霞が関。





隣の女性は
スタッフの松本です

が到着した瞬間に嘶が終わる事。こういう時はお見えになつた時に、「知事、あと5分しゃべりますが、大丈夫ですか?」と聞く事が大事。そういう事があつて主催者からも褒められた。くれぐれも来賓が来たらすぐに止めるような事をしないで、5分位嘶をすることをお勧めします。そして「来賓が来るまでつないで下さい」と講師に言つてくれる主催者と私の関係者に感謝です。

9月1日
被災地にて口演



やっと残った 2 本の木
かつてはすべて民家があつた所

岩手県野田村という地域で口演した。別に野田総理の出身地ではないが、

募集を始めて2カ月で100名突破。このままいつたら5年で目標達成だ。しかし中々そうはならないと思うが、1日に一人作つて行きたいと思っている。この3300人の夢は大きくて皆で共有できるサイトを作つて町づくり、教育、福祉、老後、笑い等と言いうテーマでいろいろな意見を交換したい。最後仲間全員が大分県で一堂に会して 大忘年会を開きたい。

友人3300人の会 100名突破!

なりました。本当に縁というのは意外なもので、大分→岩手へと胞子が飛んだのでした。椎茸生産者の方々が面白くなくても笑つてくれた。心の中にボランティアの精神がある。これを奉仕と言つ。

波で壊され、建物はあとがたもない。テレビで見る映像と実際に見る光景とが余りにも違う事を体感した。震災地の事を思うととても笑つていられない。しかし笑つネタしか持つていない。宮崎県の口蹄疫で苦しんだ方が見事に立ち直つていることを話させてもらった。熊本、大分で椎茸菌、コマを生産している森産業さんの招きで口演をした時、気に入つて頂き、岩手の椎茸生産者の方々の前でしゃべることに

もし震災を受けてなかつたら小浜市と同じよう¹に野田村で町おこしができたのかも知れない。長続きするか心配ですが、大きな防波堤が無残にも津

うな物を更新しています。か折角の新聞ですからここだけの嘶を書かせてもらいます。私の机には箱がたくさん雑然とならんでいます。その箱の中には短冊が入れられています。この短冊はその日にあつたこと等ネタが書かれています。いわゆるネタ帳、しかも妻、岡嶋、松本、赤峰（時々スタッフ）への指示が書かれていてスタッフ全員から恐怖の短冊と言われています。その指示は急に思いついたことが多くて、非計画的なで、岡嶋等は震えていますが、私としては滅多にスタッフに会う時間がないので短冊で会話をしているのです。岡嶋よりももつと震えているのは、松本です。彼女は週に2度位しか事務所に来ませんが、その都度短冊の山に出会います。どうして私の指示の短冊が溜まるのか、それは簡単。私の字が走り書き過ぎて読めないから。妻はさすが読める。「なぜ大和さんは短冊が好きなんですかね？」妻が一言いつたそうだ。「それはね、七夕生まれだからよ。」ホントの話です。

ブログに書けない マジでだけの話

来年全国CD第2弾収録決定

大分県のネタを入れたCDです。
制作ビデオ・アーツ・ミュージック
詳細は近日お知らせ致します。